

ベトナム社会主義共和国・フエ市における
防災教育プログラムの開発と実践
— JICA（国際協力機構）草の根技術協力委託事業 —
(2011.4～2012.3 第1年次報告)

2012年3月



「フエ市における防災教育プログラムの開発と実践」事業は、JICA（国際協力機構）の草の根技術協力の一環として、愛媛県西条市がベトナム・フエ市において西条市の「12歳教育（防災教育）」を紹介し、フエ市に合った防災教育プログラムの開発・実践を支援するものである。

■ 実施期間

2011年4月～2014年3月の3年間

(第1年次 2011年4月～2012年3月)

■ 対象地域

ベトナム社会主義共和国 トゥア・ティエン・フエ省フエ市

■ 背景

フエ市は、地理的に大雨が多く、毎年風水害に悩まされており、特に1999年の大規模な洪水では多くの命が失われ、経済的にも大きな被害を受けている。このような状況により、ベトナム政府は国際援助も含む大規模なインフラ整備や各種の政策や制度による対策に加え、最近では「教育及び訓練」による対策も重要視され始めているが、その内容及び方法は模索中である。

西条市もまた2004年の台風災害により大きな被害を受けており、その教訓から市では「災害に強いまちづくり」を目指し様々な取り組みを行ってきている。そのひとつである「12歳教育」は、自己判断ができるようになる12歳（小学校6年生）を対象とし、学校や地域と連携した様々な体験活動を通して防災に関する知識・技能を身につけさせ、将来を担う若者（リーダー）の育成を図ることを目的として2006年から実施されている。

また、フエ市と地形や生業、地域のコミュニティについても似ていることなどから、西条市が築き上げてきた防災教育の経験をフエ市に活かすことができると考えられる。



2004年の台風被害（西条市）



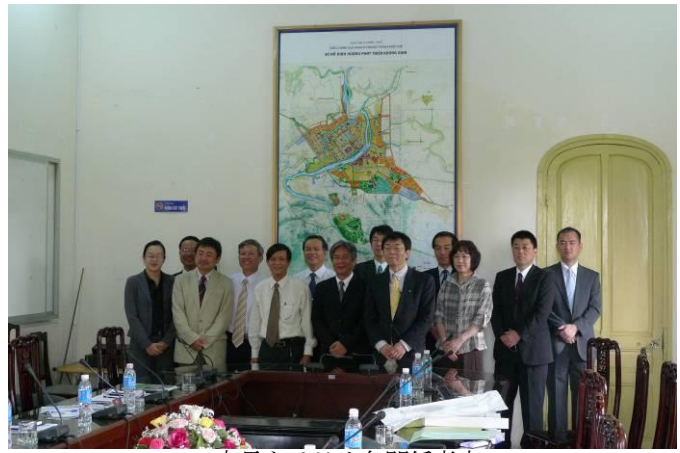
2011年の洪水の様子（フエ市）

■ 活動

事業開始に向けた協議会の開催

まず、初年度である今年度は、双方の関係者の視察・交流から始まった。5月には、西条市より大越副市長をはじめとする6名の職員がフエ市を訪れ、本事業のキックオフミーティングを開催した。このミーティングには、フエ市人民委員会、フエ市教育訓練局（DOET）、フエ市国際協力センター（CIC）、防災教育のモデル校となる Chu Van An 中学校及び Phan Sao Nam 中学校、そしてフエ農林大学（HUAF）が参加し、本事業に対する意見交換が行われた。

ミーティング後には、フエ市の実状に合わせた効果的な防災教育プログラムの展開をしていくため、フエ市及び中学校の視察を行った。



フエ市長をはじめ各関係者方



教育訓練局との協議

フエ視察団の西条市訪問



西条市長を表敬訪問したフエ市の方々



子ども防災キャンプの活動を体験する視察団

8月初旬には、フエ市のティン副市長をはじめとする防災や教育の関係者5名が西条市を訪問し、西条市の12歳教育のひとつである子ども防災キャンプを体験するとともに、学校関係者との協議が行われた。このキャンプは、子どもたちが防災の知識や技術を学習、体感することにより地域の防災意識と連携を高める契機とすることを目的として毎年実施されている。

西条市の取り組みを視察したモデル校の校長は、「学校を通して、子どもたちに防災を伝える大切さを理解できた。西条市が行っている防災教育の様々な活動をフエ市の教育にも取り入れたい」と、防災教育に対する意欲を高めたようだ。

防災タウンウォッチングの実施

8月中旬には、西条市の12歳教育実行委員会の教員をはじめとする10名の関係者がフエ市を訪問し、現地のモデル校において西条市で実施している防災タウンウォッチングを実施した。

このタウンウォッチングは、防災の視点で町の中にある危険なものや、防災に役に立つものを探して歩き、「自分の身は自分で守る」ということに生徒自身が気付くことを目的として、西条市の小学校でも実践されているものである。

町歩き後には、地域の危険な場所などをまとめた地図を作り、グループごとに発表会が開かれた。



自分たちの町を歩く子どもたち



地域の危険な場所などをまとめる地図づくり



地図を発表する子どもたち

ベトナムの学校では、参加体験型の授業は珍しく、子どもたちも楽しみながら取り組むことができたようだ。また、この活動に参加した現地の教員も、「子どもたちが地域を理解するために、自ら考える授業内容であった」と評価し、今後も実施していく旨を伝えた。

また、タウンウォッチングの前後に、活動に参加した子どもたちを対象にアンケート調査を実施した。その中で、「防災教育は大切だと思いますか?」という質問に対し、「大切だと思う」という回答が100%得られた。その理由として、

- ・ 災害から、家族や友人、そして自分自身をまもることができるから。
- ・ 自然災害は避けることができないので、どうやって防ぐか、人の命や財産をどのように守るかを知る必要があるから。
- ・ 防災について学習したことを家族と共有することができるから。

等が挙げられた。

タウンウォッチングの活動後には、「自然災害について知りたい」という回答が増え、活動前には回答のなかった災害弱者への配慮(「お年寄りを助ける」)が20%を超えるなど、自分たちも自然災害に対して弱者ではなく、「力になれることがある」という自信を得たようだ。

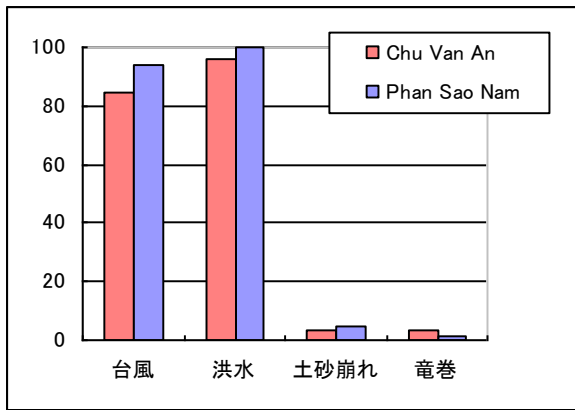
アンケートによる現地の災害把握

9月には、2つのモデル校にて防災教育クラブが結成され、12歳教育を参考にしながらフェ市版防災教育が展開されていく予定である。

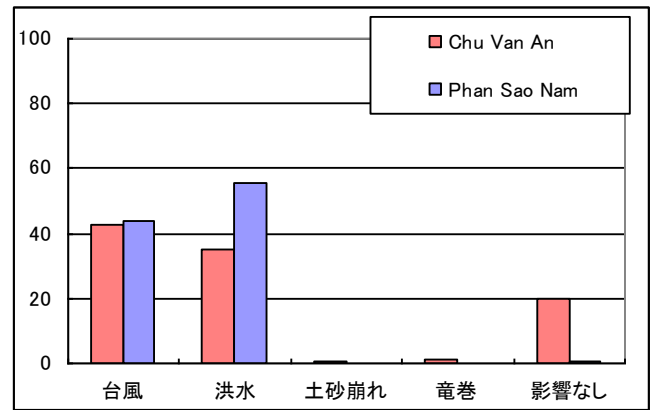
この防災教育クラブの発足に際して、現地における災害の実情を把握するため、防災教育クラブの子どもたちを対象にアンケート調査を実施した。調査結果を以下に記す。

まず、防災教育を実施する地域が主に影響を受ける自然災害を知るために以下の質問を行った。

問. あなたの地域で発生する自然災害は何ですか？



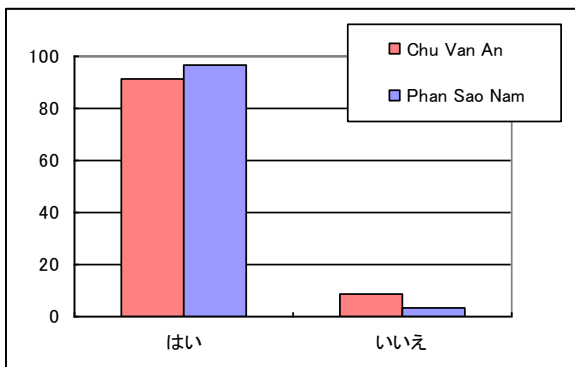
問. あなたの家族が一番影響を受ける自然災害は何ですか？



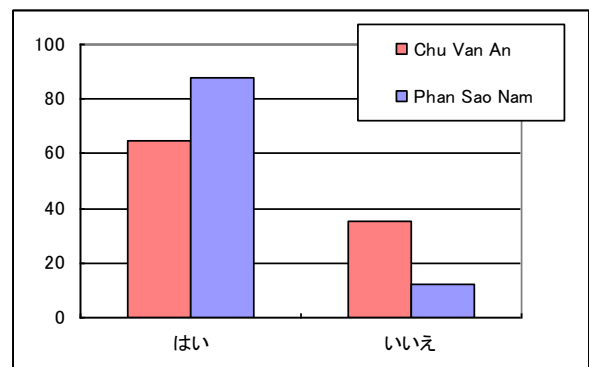
この結果から、本事業を実施するフェ市では、台風や洪水が主な自然災害であることがわかり、水害への対策を中心とする防災教育の展開が望ましいと考えられる。

次に、自然災害に備えて家族や自分自身が何か対策を行っているか、どんな対策を行っているかを尋ねたところ、以下のグラフのような結果になった。

問. あなたの家族は洪水や台風の前に何か備えをしていますか？

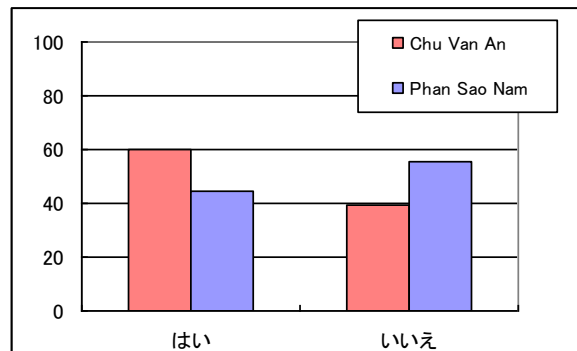


問. あなた自身は台風や洪水に備えて何かしていますか？



問. あなたは台風や洪水に対して備えの方法を知っていますか？

(上記の問で「いいえ」と回答した生徒に対して)



この質問から、台風や洪水が発生する前に、食糧や飲料水、ロウソク等の準備、家具や電化製品等を洪水から守るために安全な場所（高い場所等）に移動させておくといった備えを家族で行っていることが明らかになった。

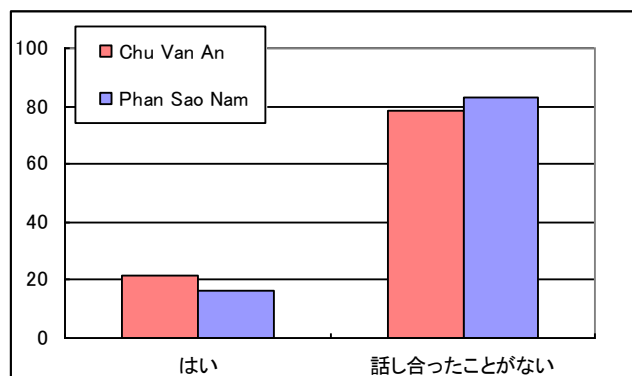
一方で、「備えをしていない」と回答した子どもたちの多くは、その理由として、

- ・ 何を準備すればよいのかわからない
- ・ 洪水対策は大人の仕事で子どもができることなどない

というように、その方法を知らないことがわかった。

次に、家族と自然災害や防災に関する話題をする頻度や内容を尋ねた。

問. あなたの家族は自然災害によって家族と離れてしまったときの集合場所を決めていますか？

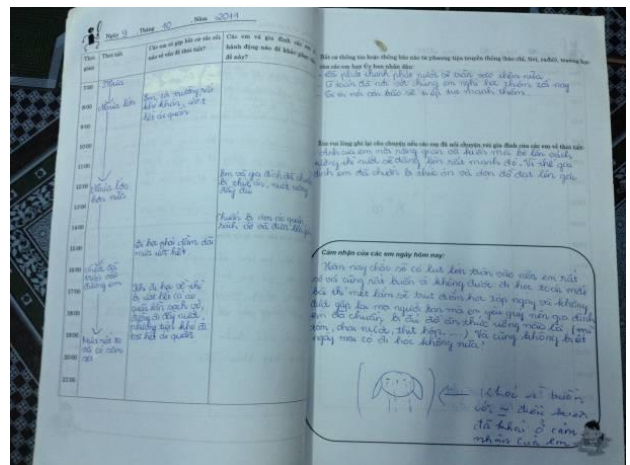


家庭では、他の国・地域で自然災害が起きたときや、実際に自分の地域で自然災害が起きているときに、状況や被害状況等について家族と話題にする程度で、避難所や避難経路といった家庭での防災計画については話し合う機会が少ないようである。

これらのアンケート調査結果を参考に、今後の防災教育支援の取り組みに活かしていきたい。

最初の取り組みとして、ベトナム中部の雨季である10月から12月にかけて、クラブの生徒に『雨季日記』という観察日記をつける活動が行われた。この日記は、フエ市の雨季の生活状況を把握するとともに、防災の視点で生活を見直すことにより生徒の防災意識を高めることを目的としている。初年度のこの取り組みは、生徒が防災の視点で生活を意識し始めただけでなく、教員も洪水時の生徒の気持ちを把握する機会となったようだ。

また、現地の要望でもあったクラブ参加生徒を対象に水泳の機会を提供し、緊急時に役立つ着衣水泳等の技術を向上していく水泳教室を体育の教員による指導で実施している。水泳教室の実施によって、今まで水泳の経験がなかった生徒も泳げるまでに上達し、来年度には成果報告のための水泳大会も現地の教員によって計画されている。



生徒が書いた雨季日記



■ 今後の展開

初年度は、現地の実状を理解するための交流や視察が主な活動であった。現地の文化・習慣が異なり、こちらが想像しない展開になることもあり、現地をよく理解する必要性を改めて感じた。今後は、初年度の結果をふまえ、現地と情報や経験を共有しながら、現地の関係者が主体となり継続的に実践していくことができる体系を築いていく。

次年度も今年度同様、2回の西条市からフエ市への訪問と、1回のフエ市から西条市への受け入れを考えている。1度目の訪問では、12歳教育に関わる教員を派遣し、現地との教員や住民と意見を交換しながら、フエ市における防災教育プログラムの計画を作成する予定である。今年度の活動を通して、現地の関係者の防災教育への関心を高めることができた。次年度は、西条市が築き上げた12歳教育における一つひとつの活動の意義を明確にし、現地の教員の防災教育に対する理解を深める支援を進めていきたい。その上で、フエ市側の要望でもある、学校だけでなく地域にも広がる仕組みを考えていきたい。

連絡先

国内連絡先:

西条市役所 総務部 危機管理課
教育委員会指導部 学校教育課
〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷 164 番地
Tel: 0897-56-5151(代)
Fax: 0897-52-1200
E-mail: kikikanri@saijo-city.jp
gakkokyoiku@saijo-city.jp

ベトナム連絡先:

中村 範子
事業調整員
Kiet 76 Hung Vuong, Hue City, Vietnam
Tel: (84)126-362-9566
E-mail: norikon_313@hotmail.com